

ふくい2030年の姿

— 25年後のふくい 夢と希望の未来像 —

〔概要版〕

2005（平成17）年3月

「ふくい2030年の姿」検討会

はじめに

「ふくい2030年の姿」は、人口減少・長寿社会、グローバル社会、情報社会の到来などの「時代の潮流」の中で、県民の皆さんの生活や生き方を含めて、将来、どのような地域社会を目指すべきかを、県庁内の若手・中堅職員である検討会のメンバー16名が夢や希望、思いを込めて手づくりで描いたものです。

今回検討した25年間すなわち四半世紀という時間は、一つの世代が時代的な役割を果たし、ほぼ完全に次の世代に引き継ぐ歳月に当たります。25年後は、私たち検討会のメンバーは第一線からの引退が近づき、私たちの子どもがまさに活躍している時代になります。また、その間に社会的、政治的、国際的に大きな変動があり得る期間とも言えます。

検討会では、25年前と現在の間の様々な社会経済情勢を整理・分析するとともに、各界各層の方々と討議を重ねながら、今後の社会変化の兆しを少しでも読み取り、25年後の本県の未来像を描く材料・視点としました。そして、こうした分析・視点を踏まえた上で、私たちが考える未来像を提言しました。

ここに示した未来像は、まだまだ荒削りな部分も多く十分なものとは言えませんが、より多くの方が福井県の未来について関心を持ち、目指すべき未来像について考え、その実現にそれぞれの立場で行動していただく契機となれば幸いです。

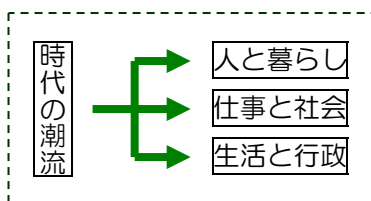
報告書の構成

第1部

〔基本的視点〕

基礎的データの比較分析と将来推計(25年前といま)

- 本県を取り巻く社会経済情勢の変化を読み解く
- 本県の特長・潜在力(良い面)と懸念材料(悪い面)を抽出、提示する



今後の視点

25年後の福井の未来像を検討する上でのポイントを示す

第2部

〔ふくい2030年の姿〕

目指すべき社会と価値観、豊かさの新しい基準

- 目指すべき社会とは **生活優先、自立社会**
- 価値観、豊かさの新しい基準とは

- ・「みんなの価値観」から「一人ひとりの価値観」へ
- ・「自己的な満足」から「ともに分かち合う満足」へ
- ・「内」から「外」へ
- ・「消費」から「活用」へ

本県の目指すべき未来像

知活福井

(産業・働き方)

知恵や知識を活かしながら、産業の活力を高め、仕事に喜びを見出し働く社会の実現

四通八達福井

(社会基盤)

交通基盤が整備され交流が盛んな福井の実現。既存の社会基盤や自然を「いかす」社会の実現

福縁福井

(地域社会)

地縁に加え、特定の目的で有志がつながる新しい縁により地域の課題を解決する社会の実現

夢福井人

(人)

一人ひとりが健康で自分の夢の実現に向けて学び、チャレンジすることを支援する社会の実現

第1部 基本的視点

第1部の「基本的視点」では、基礎的データの比較分析を通じて、これまでのわが国の社会構造の変化やその歴史的背景、メカニズムの実態を把握し、福井県を取り巻く社会経済情勢の変化等を分析しました。また、2030年の姿を検討する際のポイントを、「今後の視点」としてまとめてみました。

項目	基本的視点	今後の視点	
時代の潮流	人口減少・長寿社会 ー知識・技術を活かす新しい社会の実現ー	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少(82.9万人⇒72.8万人) ・長寿社会の到来(65歳以上 20%⇒31%) ・子供の数の減少(15歳未満13万人⇒8.8万人) ・「団塊の世代」の高齢化 ※数字はいずれも、2000年 ⇒ 2030年	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少により生まれる一人当たりの空間や社会基盤の余裕の活用 ○年齢性別を問わずより多くの人が知識や技術を活かしながら生きがいを持って働くことのできる社会づくり
	経済構造の変化 ー新しい質と尺度の経済社会へー	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長率の低下 ・若年層でのフリーター、ニートの増加 ・1億総中流の崩壊(所得格差の拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「質的」な豊かさをもたらす新たな尺度の誕生 ○人的資本の「質」の向上 ○女性や高齢者の社会参加の促進 ○新たなビジネスチャンスの拡大
	グローバル社会 ー大交流の時代に向けてー	<ul style="list-style-type: none"> ・中国など東アジアの急速な経済成長 ・製造業の国際分業化の進展 ・外国人登録者数の増加 (1.3万人、25年間で2.6倍) ・国境を越えて移動する観光客の増加 ・世界人口の爆発的増加 (食糧・資源不足、環境悪化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○東アジアの中での福井県の地理的優位性の活用 ○ものづくりや原子力産業の集積など福井県の潜在能力の活用
	情報社会 ーバーチャルによるリアリティの実現ー	<ul style="list-style-type: none"> ・通信・移動技術の進歩(IT革命等)とメディアの多様化 ・ケーブルテレビの普及('04普及率8割超)とブロードバンド契約数の増大('04世帯加入率4割超) ・バーチャル化と「ユビキタス社会」 (コミュニケーションが革新的に進化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○バーチャル社会の到来 (バーチャルによるリアリティの実現) ○ITのメリットを最大限活用 (ビジネスチャンスの拡大等) ○「バーチャル」と「リアル」がバランスのとれた複元社会の実現
人と暮らし	価値観・ライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化・個人化する価値観(一人十色時代) ・県民の大切にしたいもの「家族」 (約8割('04県政マーケティング調査)) ・結婚、職業観、余暇の過ごし方などライフスタイルの変化(生活の欧米化) ・堅実で勤勉といわれる県民性 ・積極的に人より前に出たがらない気質 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な価値観、生き方を認めると同時に、ともに生きるためのルールを尊重する社会の実現 ○目的を共有することによる新しいネットワーク・人間関係の構築 ○国内外の様々な人たちとの交流を通して自らの殻を破り社会をリードする気質醸成
	家族のかたち	<ul style="list-style-type: none"> ・「三世代家族」の減少と「単独世帯」の増加 (5人以上の世帯 東京6.4% 大阪8.8% 福井24.1%) ・家族への帰属意識の希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ○心の拠所としての家族の意義の再認識 ○家庭が担ってきた教育、介護などの機能の復活 ○三世代のつながりが比較的強固な福井の特徴を活かした安心な社会の形成
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代が同居する福井の大きな家 ・空家率の増加(空家率 全国12% 福井13%) ・小規模世帯の増加など、住宅への考え方の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ○質の高い福井の空家の活用 ○ライフステージに合わせて住居を変える生活スタイルの増加

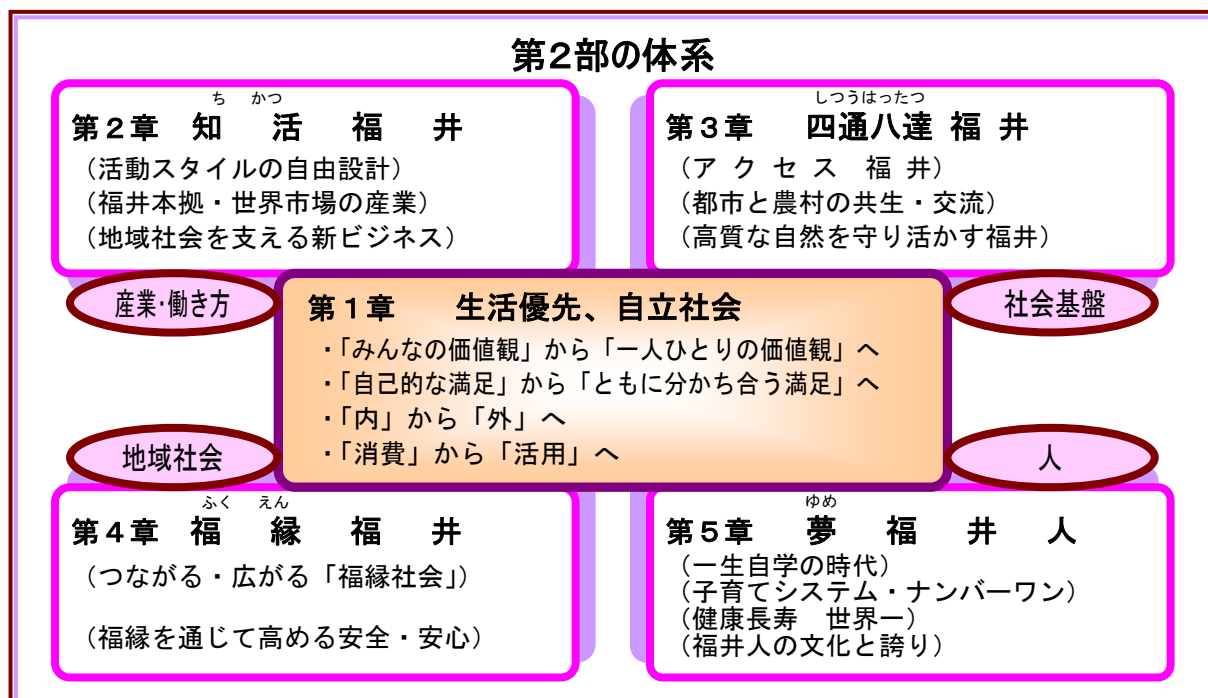
項 目		基 本 的 視 点	今 後 の 視 点
人 と 暮 ら し	地域社会と 公 共	<ul style="list-style-type: none"> ・「地縁」に基づく人と人とのつながりの希薄化 ・防災や子育てなど地域社会が担ってきた相互扶助機能の弱体化 ・地域社会が担ってきた介護や育児を補完するNPOやボランティア活動などの活発化 ・重油流出事故や豪雨災害などの経験から生まれた「社会貢献に対する意識」の高まり ・防災や子育て等の分野におけるNPOやボランティアなど「民間が担う公共」の領域の広がり(人口当たりNPO数 全国6位) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア、NPOなど目的を共有する人たちの活動から形成される人間関係による地域活動の活発化 ○地域活動等を行う新たな人と人との結びつきの醸成 ○「民間が担う公共」の分野の拡大 ○NPOやボランティアが行政のパートナーとして活躍
	教 育 (人づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域社会の持つ教育力の低下 ・国際比較での日本の学力の低下 ・遊びに内在する「育てる力」の低下 ・才能を伸ばす教育へのニーズの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の資質に応じた教育の充実 ○家庭、地域社会、学校が一体となって取り組む社会全体の教育力の向上 ○NPOやボランティア、企業などとの連携
	文化・伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな伝統と文化が存在 ・後継者の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○先人の知恵の集積である文化や歴史の活用 ○文化を培う仕組みの構築

仕 事 と 社 会	産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維、眼鏡、機械などものづくり産業の集積 ・経済のグローバル化による産業空洞化 ・地場産業の低迷、新分野の成長 ・経済のサービス化の進展 ・稲作中心の農業 ・兼業農家比率日本一⇔低い農業所得 ・森林資源の保全と活用(木材) ・雇用形態の変化と非正規雇用者の増大 ・労働組合組織率の低下、組合員数減少 ・リストラや給与所得の減少による若者の資格取得や高い専門性習得の意欲の高まり ・労働力人口の減少 ・「高齢観」の変化と高齢者雇用 	<ul style="list-style-type: none"> ○労働力人口の減少・経済のグローバル化に対応した産業構造、企業経営への変革 ○国際分業を視野に、技術蓄積を活かした最先端技術開発等による質的に強い産業の創造 ○高齢化社会に対応した新たな産業の創造 ○海外市場も視野に、広域化や企業化による農林水産業の高付加価値化 ○余暇活動やセカンドライフとして自然との結びつきを楽しむ「晴耕雨読型」農林水産業の普及 ○「会社」を選ぶ時代から「職」を選ぶ時代への移行 ○会社に縛られない様々な働き方 ○仕事に対する専門性が求められる時代の到来 ○個々人の特技や能力を活かした職業人
	車 社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・免許1枚に一台といわれる、交通手段の自家用車への極度の依存('80 一家一台) ・公共交通の衰退による交通弱者の利便性の悪化 ・交通事故や環境負荷の社会問題化 	<ul style="list-style-type: none"> ○「待つ」とか「歩く」といった発想を取り入れた人と環境にやさしい交通体系の実現 ○マイカーを持たない人などに乗合タクシーなど多様な交通手段の確保
	中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> ・車社会への移行に伴う駅を中心とした市街地の地盤沈下 ・バブル期の地価高騰や住宅密集地域での建替えの困難さから「スプロール現象」が進行し、中心市街地が空洞化 ・商業、商店街の衰退と郊外型大型店舗の繁栄('77ピア '80ベル) 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩くことを楽しめるまちづくりの推進 ○医療一体型集合住宅の整備など多世代が同居する居住型中心市街地の実現 ○若者が自分の能力と可能性に賭けてチャレンジできる街

項 目		基 本 的 視 点	今 後 の 視 点
仕 事 と 社 会	農 村・ 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地の過疎化と高齢化の進行 ・都市周辺農村での無計画な開発の進行や全県的な耕作放棄地の増加 ・兼業による高い世帯収入 (全国550万円 福井800万円) ・サラリーマン世帯の増加による集落機能の低下 ・耕作放棄地の増加や間伐の放置などによる田畑や森林の荒廃の社会問題化 ・ゲンゴロウなど身近に見られた生物の激減 ・エコ・グリーンツーリズムへの関心の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○人が住む緑豊かな田園風景の復活と保全 ○週末田舎暮らしなどによる都市部との交流促進 ○地産地消を基本とした安心・安全な農作物の供給 ○自然を楽しむ癒しの場・教育の場の提供 ○医療(森林療法等)や福祉への活用など積極的な自然環境保護活動の展開 ○自然の力を活用することによる自然災害の被害軽減
	人口の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・転出超過県、人口移動の少ない県 ・大都市圏への人口の流出 (中山間地域の人口減少と高齢化) ・郊外の人口増加(ドーナツ化現象) ・都市住民の「二地域居住」意識の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○スローライフや田舎暮らしの流行 ○二地域居住人口の増大 (2030年:1,000万人) ○団塊の世代の定年移住など地方回帰への対応
	環 境・ エネルギー 問 題	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化など地球環境問題の深刻化 ・酸性雨など国境を超えた公害問題の顕在化 ・15基の原子力発電所の立地 ・新エネルギーの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○大量生産・大量消費型社会から循環型社会への転換 ○本県に集積する原子力発電所などの資源の活用 ○原子炉廃止措置に向けた新産業創出等の実現 ○次世代のエネルギー問題への先駆的な取り組み
	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の増加と凶悪化・深刻化 ・自然災害による被害の続発 ・食の安全性に関する関心の高まり (食をめぐる問題の多発化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアやNPOとの連携による安全・安心な地域づくりの推進 ○県民と行政が一体となり、防犯意識や青少年の倫理観を高める取り組みを推進
生 活 と 行 政	地方の自立	<ul style="list-style-type: none"> ・中央省庁主導による全国一律の行政サービス ・経済の停滞などによる地方財政の悪化 ・地方の自立に向けた三位一体の改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○国の権限と財源の地方への委譲 ○自治体の自己責任による事業の選択と集中 ○ナショナル・ミニマム(必要最低限の生活水準)からの脱却とローカル・オプティマム(最適地域標準)の実現 ○官から民へ
	生活圏・ 経済圏	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や鉄道など社会基盤の整備により、日常生活での行動範囲が市町村の枠組みを超えて拡大 ・経済のグローバル化などにより、企業の経済活動の範囲が県境、国境を超えて拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○県民の生活範囲や企業活動の広がりを踏まえ、近隣府県や市町村の間での連携を強化

第2部 ふくい2030年の姿

第2部の「ふくい2030年の姿」では、第1部で行った現在と25年前の過去との比較・分析や様々な時代の変化を示すキーワードを手がかりとして、夢や希望を折り込みながら、目指すべき25年後の福井の未来像を描きました。



第1章 生活優先、自立社会

個人が自立した自分の生活をつくり、官民の役割を見直しより広い分野で民が官に頼ることなく自立し、地方も国から自立した、新しい価値観と生活感、豊かさを伴った「生活優先、自立社会」を実現

○「みんなの価値観」から「一人ひとりの価値観」へ

社会的な人間関係において、価値観は地域、職場など「集団」の中での均一、横並びといった「みんなの価値観」から、自分らしさや「個」の自由など「一人ひとりの価値観」に心のよりどころをおくという基準に転換

○「自己的な満足」から「ともに分かち合う満足」へ

日常的な暮らし面では、豊かさは所得の上昇やマイホームの取得など生活する上での「自己的な満足」を超えて、伝統、文化の継承・発展やまちづくり、他人への奉仕などから得られる誇りやゆとり、思いやりなど「ともに分かち合う満足」へと転換

○「内」から「外」へ

福井人は、「内」向きの気質が強かったが、これまでの福井人氣質の殻を破り、積極的に「外へ出る気風」を醸成していくことが必要

○「消費」から「活用」へ

古いものや食べ残しを大量に捨てるような「消費」社会からは脱却し、既存のものを「いかし」、有効に無駄なく「活用」する社会に移行していくことが必要

第2章 ちかつ 知活福井

- ・福井の産業の活力を維持していくため、「健康で長寿」な福井人が、定年などの既成概念を捨て、自らの体力、意欲にあわせ培ってきた知恵を活かしながら、仕事に喜びを見出し働く社会を実現
- ・農林水産業を含む福井の産業は、蓄積してきた優れたものづくりの知恵や地理的優位性などを最大限に活かし、高付加価値を生み出す産業に転換
- ・地域では、少子高齢化などを背景に、多様なニーズに対応した新しいビジネスが発展

2-1 活動スタイルの自由設計

(80歳まで社会参加―「職持ち」「役立ち」の70代―)

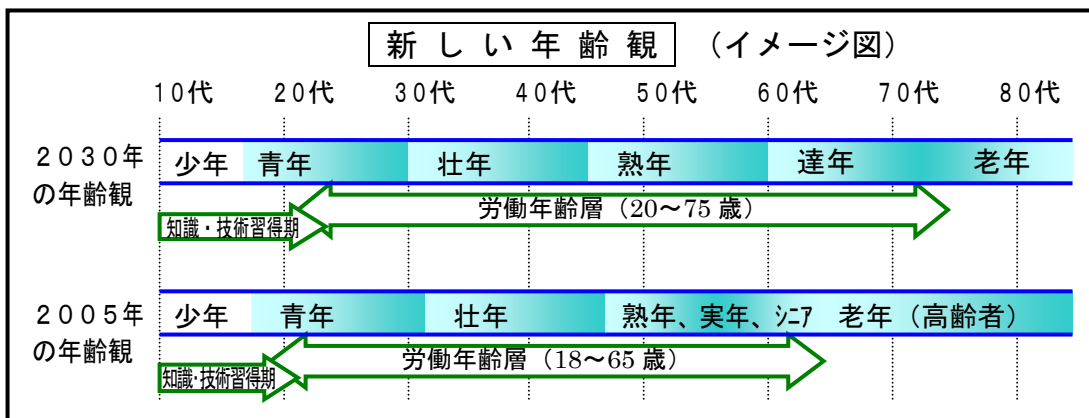
- ・平均年齢の推移でみると2030年には「50代前後が中心の社会」に移行
- ・豊富な経験を持ち仕事に意欲的な「**達年** (健康な60歳～75歳までの人《検討会造語》)」の就業の場と働きやすい仕組みを全国に先駆けて整備
- ・75歳頃までは能力、体力、意欲にあわせて働き、その後も地域活動などを通じて地域に貢献
- ・2030年には、労働力として位置付ける年齢層が、現在の18～65歳から20～75歳に変化

(女性・男性の共立社会)

- ・女性・男性を問わず個人のワークスタイルを自由に設計できる社会を実現

(チャレンジ・チャンスのある若者)

- ・新しいことにチャレンジしようとする若者がそのチャンスを得るため、年齢を問わず能力開発に取り組めるよう資格や高い専門性の習得の機会を充実



2-2 福井本拠・世界市場の産業

(世界をリードする福井の技術)

- ・福井が持つ技術やノウハウを産学官の連携でさらに伸ばし、世界をリードする「他に真似のできない技術・ノウハウ」を持ち、福井を本拠に世界市場で成功する企業を多数育成

(世界の知恵が集結する原子力産業)

- ・世界に例のない技術・ノウハウを活かし、世界最高水準の「知見」を持つ研究者が集結する環境を整備
- ・福井の環境を守るためにも、福井で育んだ日本の原子力技術を中国をはじめとする東アジア諸国やロシアなどに積極的に移転し、福井がアジアの原子力産業をリード
- ・産学官が一体となって原子力関連技術の地域産業への移転を進め、原子力発電所の「建設から廃炉まで」一連の作業を担うことのできる企業群を県内に創出

（「担い手農業」から「農業者の多業種経営」）

- ・農業に加え、健康関連事業や観光、環境関連事業などを複合的に行う**多業種経営**の企業を創出
- ・電力移出県である優位性を活かし、LED（発光ダイオード）を用いた農産物生産工場が立地

（福井でつながる東アジア）

- ・企業の研究開発部門で東アジア諸国などとの分業を進め、積極的に優秀な人材の交流を実施

2-3 地域社会を支える新ビジネス

（生活支援ビジネス）

- ・価値観や仕事・雇用の多様化や女性の社会進出が進み、多様な**生活密着型サービス**の需要が高まり、現場に即した創意工夫で対応するNPOや地域助け合いビジネス（コミュニティ・ビジネス）が発展
- ・単身世帯等の増加に伴い**世帯支援サービス**が発展し、既存の商店街単位でも積極的に展開

（官民複合型の社会資本活用）

- ・官から民への流れの中、長年の活動でノウハウを蓄積し全国的、世界的に活動するNPOが誕生

第3章 しつうはったつ 四通八達 福井

「四通八達」とは、道路や交通、通信が四方八方に通じ、人や物が自由に行き来しつながること。

- ・北陸新幹線や高規格道路などの整備が進み、移動時間が大幅に短縮され、福井と大都市の交流が活発化。中心市街地と郊外、農村をつなぐ交通ネットワークも充実し、都市と農村が共生・交流
- ・資源を大量に使って新しく施設や道路を造りつづける「つくる」社会から、中心市街地、郊外、農村のそれぞれが持つ既存の施設や道路を有効に活用していく「いかす」社会に移行
- ・環境への負荷の少ない自然素材型社会の構築を進め、生活と自然が共存

3-1 アクセス 福井

（三大都市圏に最も近い日本海福井）

- ・北陸新幹線が開業することにより、日本海側で最も三大都市圏に近い県「福井」
- ・三時間到達圏内の主要都市の人口が現在の約1,200万人から約**2.3倍**の約2,700万人
- ・首都圏から1泊2日で遊びに来る手頃なエリアとなり、魅力ある中心市街地や観光地づくりを進め、県外からの観光客数を2～3倍に増加させることも可能
- ・高規格道路の開通や県境をまたぐ道なき国道の整備、JR北陸線の直流化などにより、関東、関西、中京圏への移動時間を短縮。特に、関西・中京圏の人から見た**身近な地域**としての福井のイメージを定着

（東アジアの玄関口福井）

- ・中国をはじめとする東アジア諸国やロシア対岸への日本海側の玄関口として、観光や経済、人材の交流を活性化

（ノーマイカー交通システムの実現）

- ・鉄道と自宅近くまで迎えに来るデマンドバスや乗合タクシーなどを組み合わせて、車に頼らず30分以内に日常生活に必要な場所に低料金で移動できる交通システムを実現
- ・新しい道路をつくり続けることは困難な選択と集中の時代。鉄道などの公共交通と道路を一体的に運営
- ・車のためだけの道路ではなく、歩行者や自転車を優先し車のスピードを上げさせない道路づくりを進め、ゆとりと譲り合いの心を持った「**スロードライブ社会**」を実現

3-2 都市と農村の共生・交流

(ウォーブ都市 — 中心市街地 —)

- ・ 中心市街地は、集積している公共施設、商業施設、医療施設などの既存ストックを活かしながら、「歩くことを楽しめるまち」、「多世代が楽しめるまち」、「快適に住めるまち」として市や町が中心となり最適地域標準（ローカル・オプティマム）の発想で整備

(自然を実体験する農村)

- ・ バーチャルでは味わえない「実体験からくる本物の感動」が大きな価値を持つ中、農村では、豊かな自然やおいしい水、祭りなど固有の文化を活かして、自由な時間やゆったりとした空間という生活の質を贅沢に楽しめる新たな魅力を創造

(ライフステージホーム社会)

- ・ 中心市街地や農村で「住み替え・住み継ぐ」ことを前提とした良質な住宅の建設を進め、こうした住宅ストックを循環させるシステムを構築。ライフステージに応じて住み替える家族が増加

(景観を活かす街並み創造)

- ・ 住民自らが周辺と調和した美しい街並みを創造
- ・ 地域全体の景観を維持することを目的とした山林や農地の開発制限を実施

(福井と外との二地域居住)

- ・ 2030年には都市部と田舎に二つの家を持つ「二地域居住者」が全国で約1,000万人
- ・ 県外の都市部で生活している人が、福井を「第二のふるさと」としてセカンドハウスを持ち、自由な時間や地元の食材を使ったおいしい食事など生活の質を贅沢に楽しむ「週末田舎暮らし」を満喫
- ・ 農地を減らさず、森林、里山とともに社会資本として活用し維持する新しいサイクルを創造

3-3 高質な自然を守り活かす福井

(活かし守る自然)

- ・ 福井は身近に豊富な自然が集積しており、リハビリテーション等の医療・福祉分野、自然体験学習等の教育分野などで自然を積極的に活用

(自然素材型社会の実現)

- ・ ゴミ問題など環境に対する社会的費用が増大する中、今の自然から得られる植物由来原料や太陽光、地熱などの自然エネルギーを活用する、「自然素材型社会」を実現

第4章 福縁福井

- ・ 人と人とのつながりの希薄化により、地域に内在していた教育力、防災力、防犯力などが脆弱化
- ・ 三世同居率が高く、まだ「地縁」が残っている福井においては、従来からのつながり「地縁」による地域活動に加え、特定の目的で有志がつながる新しい縁「福縁*」が広がり、地域パトロール、介護、祭等の活動が活発化
- ・ 住民相互の固い信頼が生まれ、福井では「本物の安心」が実現

* 「福縁」

特定の目的のために有志が集まり、NPOやボランティア、地域助け合いビジネス（コミュニティビジネス）、趣味などの活動をするところに生まれる「つながり」を指す当検討会の造語。（幸福をつなぐ縁）

地域福祉や相互扶助など他人への貢献を目的とした活動に参加することで、地域への誇りと個人の充足感・達成感（=幸福）も得られる。

4-1 つながる・広がる「福縁社会」

（「三世代近居」が支える家族）

- ・「個」を重視する価値観が広がる中、「個」が「孤」とならないためには、離れてもお互いが支え合う家族関係が必要
- ・余剰住宅や広い土地を活かして、三世代が近くで生活をする「三世代近居」が増加

（地縁の復活と地域の自立）

- ・自分たちの住む地域の環境美化など地域の問題は地域で解決する、自分の住む家の前の雪は自分で捨てるなど自分のことは自分でやるといった、当然の節度と責任を持つ自立した地域社会を実現
- ・自治会長の半数が女性になるなど様々な団体で女性の役割が高まり、男女が協力して地域活動などを実施

（新しいつながりー広がる「福縁」）

- ・「地縁」、「血縁」、「職縁」による既存の地域活動に加えて、特定の目的の下で有志（「個」）が集まる「福縁」による活動が広がり、子育て、防犯など様々な課題に自主的に取り組んでいく社会を実現
- ・住民としての企業の社会貢献活動も活発化

（縁（えん）の拠点「縁ステーション」）

- ・住民一人ひとりが自分のできる地域活動に参加できる「縁ステーション」を設置し「福縁」をつなぐとともに、既存の公民館も地域活動を支援する様々な新しい役割を果たし、「漏れのないコミュニティ」を形成

4-2 福縁を通じて高める安全・安心

（安全・安心を信頼のレベルに）

- ・福井では地縁の復活と福縁の支えあいにより、地域に固い「信頼」が生まれ、お互いが助け合って、犯罪や災害などどのようなリスクにも立ち向かえる地域を実現

（日本で最も安全・安心な福井）

- ・住民が相互に協力して地域の防犯、防災など地域の安全性を確保し続けることで、犯罪の日本一少ない県となり、都会から多くの人々が「安心」を求めて移住する「日本で最も安全・安心な福井」を実現



第5章 ゆめ 夢 福 井 人

- ・ 経済が低迷し社会格差が拡大する中で、将来に夢や希望を持たない、持てない人たちが増加
- ・ このような時代をたくましく生き抜くためには、一人ひとりが自立し、自分の夢の実現に向けて学び、チャレンジしていくことが必要
- ・ 「ねばり強く、勤勉でまじめ」と言われる福井人は、健康を維持し、夢をかなえる努力を惜しまず、グローバル社会において、世界を相手に堂々と活躍

5-1 一生自学の時代

(子ども中心の社会)

- ・ 子どもは、親に従属した大人になるための過渡期的な存在ではなく、一人の人間として存在
- ・ 子どもたちを、グローバルな社会の中で生き抜いていける人間に育てるため、子どもたちが自ら考え、チャレンジすることを、親や社会が子どもの目線で支える「**子ども中心の社会**」を実現
- ・ 大人が子どもたちの意見やアドバイスを真摯に受け止め、お互いに高め合う「**助言社会**」を実現

(子どもの自立と自学)

- ・ 仕事に対する専門性が強く求められる時代になり、子どもの頃から自分の「夢」や「進みたい道」について考え、意欲的に学び努力していくことが必要
- ・ 学校は最も技術を持った人材と最新の設備を有する教育の場として、専門能力の高い教員が、家庭や地域の協力を得ながら、子どもたち一人ひとりの能力や特技を伸ばす多様な選択肢を提供
- ・ 2030年に福井は、学校に対する子どもたちの満足度が全国で最も高い県を実現

(わが道 自習)

- ・ 社会人になってからも、常に自己の「**職能**」の向上を図り、真のプロフェッショナルを目指す人を支援するため、学びたい人には**いつでも学べる環境**を整備

(国際標準の行動力)

- ・ NPOなどの団体が、海外留学やインターンシップなどのプログラムを充実
- ・ 小中学生の頃から潜在能力や技術、可能性などを十分に伸ばし、世界を舞台に活躍する若者を育成

5-2 子育てシステム・ナンバーワン

(子育て支援システム)

- ・ 人口の減少を所与とせず、少子化対策を進め、急激な人口減少を抑える最大限の努力をすることが必要
- ・ 子育てなどの女性の負担を軽減する「**女性活動支援システム**」や、不妊治療や出産、育児の費用を社会全体で負担する「**社会契約的なシステム**」を整備し、総合的な「**子育て支援システム**」を構築

(子育て世代の誘致)

- ・ 魅力ある子育て環境を作り上げ、全国から子育て世代を誘致
- ・ 合計特殊出生率や人口当たりの子どもの数が日本一となるなど、**子どもがたくさんいる社会**を実現

5-3 健康長寿 世界一

(長生き健康生活)

- ・ 現在の福井は、30代男性の肥満の割合が高く、男性の喫煙率も日本一高い地域
- ・ 生活習慣を大幅に改善する努力を続けることにより、「**平均寿命**」、「**健康寿命**」ともに世界一となり、自分の天寿をまっとうするまで**健康でいきいきと生活**できる社会を実現

(がんを治すなら福井)

- ・がんを予防する生活習慣の定着や陽子線がん治療などの先駆的がん治療システムの確立により、**県内のがんの死亡率を半減**させ、がん治療の患者を県外、海外から多数受け入れることのできる環境を整備

5-4 福井人の文化と誇り

(福縁が培う福井文化)

- ・「福縁」により福井の**文化を培う仕組み**を構築し、伝統文化を継承
- ・企業の社会貢献活動や「福縁」でつながる趣味のサークルや文化講座などが活発に活動し、ゆとりある時間を持ち高い教養を身に付けた福井人が増加

(誰もが親しむ芸術文化)

- ・芸術家への支援を充実させることなどにより、一流のアーティストや文化人が福井に集い、子どもから大人まで誰もが本物の美術や音楽、俳句などの文化を身近に安く楽しむ社会を実現

(誇りを生み出すスポーツ文化)

- ・福井を本拠地とするサッカーやバスケットボールなどの**プロスポーツチーム**を福井人のサポートと他地域との連携により創設

【メモ欄】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

○ふくい いろはかるた

この「ふくい いろはかるた」は、子どもたちに自分たちの住んでいる福井の「しぜん」、「れきし」、「くらし」、「じまん」などを知ってもらいたいと考え作ってみました。

大人が子どもの気持ちになって作ったものですが、少しむずかしくなっていました。かるたは、自由にことばを使え、いろんないい方ができますから、子どもたちが自分で考えて作ってみると、またちがったものができると思います。

今から25年がすぎると、かるたに使うことばもかなり変わるはずですが、2030年の「ふくい いろはかるた」はどんななかみになるのでしょうか。

い	いっびつけいじょう 一筆啓上 短い手紙	み	井戸がおおもと 福井の名前
ろ	ろくろをまわして 越前焼	の	のんびり芦原の 温泉あついよ
は	はくさん 秋には白くなる	お	お米のファミリー コシヒカリ
に	西、エーゲ海 東、コロラドと 同じ緯度	く	くずりゅう 九頭竜めざす あちこちの川
ほ	ほこりと自信の 83万人	や	やさしい母さん お市の方
へ	へその「日本まんなか」福井	ま	まつおばしやう つるが めいく 松尾芭蕉 敦賀で名句
と	どうげん 開いた 永平寺	け	健康 家族で作って食べる
ち	ちかまつ 浄瑠璃 ところを描く	ふ	ふじの 藤野先生 魯迅の 恩師
り	りんりん すいせん 輪々水仙 りんと咲く	こ	小次郎できた つばめがえし
ぬ	ぬ 塗りを重ねて ウルシの漆器	え	英語で 茶の本 岡倉天心
る	ルビーのような ミディマト	て	電気を支える 原子力
を	おばま うら 小浜の浦に 初めて象来る	あ	あすわ みかた ばいりん 足羽の桜 三方の梅林
わ	和紙すく技術 千年つづく	さ	さない うんびん ゆめ 左内 雲浜 夢に死す
か	さぎつちや 勝山左義長 大野朝市	き	だんがい とうじんぼう 切り立つ断崖 東尋坊
よ	そくい けいたい よくぞ即位の 継体天皇	ゆ	雪を楽しみ 冬に勝つ
た	きりづま たんぼにうつる 切妻農家	め	せんい せかい ゆしゆつ メガネと繊維 世界に輸出
れ	しゅんがくこう 歴史ひらいた 春嶽公	み	みけつ 御食の国は ごちそういっぱい
そ	さばずし かに 空とぶ鯖寿司 列車の蟹めし	し	社長の数は どこより多い
つ	つるつるからいぞ おろしそば	ゑ	えちぜん わかさ 越前・若狭 いちの国
ね	眠れる恐竜 骨や卵で	ひ	ひのさん しきぶ 日野山ながめて 式部と父さん
な	ちやうせん ゆり きみまさ なんでも挑戦 由利公正	も	文字のものしり 白川博士
ら	ラッキョウすっぱい 花はむらさき	せ	せかい にほんかい 世界につながれ 日本海
む	あさくら いせき 昔のおもかげ 朝倉遺跡	す	すぎた げんぼく いがく 杉田玄白 医学のはじめ
う	たちばな あけみ 歌よむ達人 橘 曙覧		

※ 各かるたの意味は、右URLに掲載。 <http://info.pref.fukui.jp/seiki/irohakaruta.html>

○コラム集 ー2030年の福井人の姿ー

このコラム集は、第2部の「ふくい2030年の姿」で描いた未来像を踏まえ、25年後の福井の子どもや若者、女性、ビジネスマン、高齢者それぞれの生活や活動の様子を物語風に紹介したものです。

子どもの姿

敦賀市の河野海男くん（9歳）は、現在、小学3年生です。学校まで10分間の道のりには、いつも近所の人笑顔で手を振ってくれています。

今日の1時間目は社会です。今日の先生は、近所のスーパーマーケットのおじさんでした。緊張していて、いつもと違う様子だけど、日ごろの苦勞を面白く話してくれました。スーパーマーケットでは、売場でレジを打っているお姉さんだけでなく、調理場などいつもは見えないところにたくさんの人が働いていることがわかりました。でも、一番興味を持ったのは、仕入れの量の決め方と値段のつけ方でした。

となりの教室では、70歳代男性を対象にした編物教室をやっています。休み時間にのぞいてみると、なんと先生は、海男くんのお母さんでした。「教えるの、なかなかうまいじゃん…。」海男君は感心しました。

放課後になりました。海男君は地区の大手企業がスポンサーの野球クラブに入っています。野球チームの練習場所は、隣の小学校のグラウンドです。ここでは、4つの小学校から集まっています。1時間ほど練習していると、中学生のお兄さんたちも集まってきました。さすがに、体も大きくて、ボールも速いです。でも、肘の使い方など、ピッチングの基本を優しく教えてくれたりします。

若者の姿

鯖江市の松岡志郎さん（23歳）は、昨年、法科大学を卒業して、現在、ドラッグストアでフリーターをしています。

ドラッグストアでは、レジや商品の陳列が主な仕事ですが、半年くらい仕事をしたあたりから、売れ筋商品が読めるようになり、店長から仕入れについてアドバイスを求められるようになりました。

フリーターとはいえ、現在では、その能力を評価して、採用試験に加点されます。この店の店長は、松岡さんを高く評価しています。松岡さんも、こういう仕事が向いているのかなと思いついて始めています。

実は、松岡さんはプロ歌手志望でした。20歳のときに作った曲が、アマチュアコンテストの全国大会でグランプリを獲ったことから、夢を追い続けているのです。

アルバイトの時間が終われば、福井市の駅西などで、路上ライブを開いています。結構、大勢のひとが聞きに来てくれますが、グランプリ曲なみの作品がなかなか作れないことから、最近、プロ歌手になる夢をあきらめて、趣味として歌い続けるだけでいいか…と思いつけています。

松岡さんの進む道も、ようやく決まりそうです。

越前市の今立紙子さん（34歳）は9年前に結婚し、現在、夫（36歳）と8歳の長女、5歳の長男、2歳半の次女の5人暮らしです。

広告会社に勤める紙子さんは、次女を出産後1年間の育児休業を取得した後、さらに1年間在宅勤務制を活用しています。子どもの面倒を見ながら勤務できるこの制度のおかげで、今回もうまく勤め先に復帰できたと思っています。

現在は、小学校教員の夫が1年間育児休業して、子どもたちを育てています。

彼は、毎日、子どもたちと近くの山や川に出かけて遊んでいます。さまざまな人とできるだけ多く触れ合う機会を作り、また、できるだけ多くのものを見せたいと思っているので、子どもたちと一緒にいるときは、なるべく自家用車を使わないようにしています。

夕方、紙子さんが帰宅すると、真っ黒な顔をした3人の子どもたちと、夫の手作りの豚汁と里芋コロッケが出迎えてくれました。夫が、昼に娘と出かけた日野川の河川敷公園で知り合ったお父さんのおすすめレシピだそうです。

女性の姿

※ コラム中の人名はすべて仮名です。

ビジネスマンの姿

あわら市の金原大和さん（32歳）は、現在、中国上海市にある電子機器メーカーの東アジア総括支部で働くエンジニアです。

福井本社に入社したばかりのときにびっくりしたのは、中国やロシア出身の研究者が多いことと、彼らの意識が高かったことを今でも鮮明に覚えています。

金原さんも負けずに、入社2年目から大学院の夜間部で東アジア経済を専攻しました。さらに、2年前には3か月間休職し、中国語会話の専門学校に通いました。

その甲斐あって、金原さんは、東アジア総括支部への転勤が決まりました。

今日は、開発チーム員のミーティングがあります。金原さんは、中国人、ロシア人、インド人研究者などからなる「多国籍チーム」のチーフに指名されました。彼らのテーマへのアプローチはそれぞれユニークで、あまりの違いに、当初は戸惑いましたが、努力の甲斐あって、メンバーからの信頼を獲得しています。

明日は久しぶりに福井本社に出張です。飛行場についての時間で、小松経由で行くか、関空経由で行くか決めたいと考えています。

高齢者の姿

福井市の美山森子さん（78歳）は、夫（75歳）と2人暮らしです。夫の退職を機に、福井駅西口のマンションに引っ越してきました。

転居の際に自家用車は手放してしまいましたが、駅西では、食品や衣類、日用品などの店や飲食店など、ひと通りそろっているのが、歩ける範囲で事足りてしまいます。病気になっても、マンションのすぐ近くに病院があるので安心です。

駅周辺は、歩くことを中心に整備されているので、段差などもなく安心して歩き回ることができます。城址公園から郷土歴史博物館、養浩館へと続く小道は、緑も多く、美山さん夫婦お気に入りの散歩コースです。何度も通っているうちに、ずいぶん福井の歴史に詳しくなりました。今では、近くの縁ステーションで、小学生を相手に、週1回福井の歴史のお話し会を開いています。

【メモ欄】

ふくい2030年の姿

— 25年後のふくい 夢と希望の未来像 —

〔概要版〕

作成者 「ふくい2030年の姿」検討会

問合せ先 福井県総合政策部政策推進課

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1

電話 0776-20-0225

FAX 0776-20-0623

E-mail seisaku@pref.fukui.lg.jp

URL <http://info.pref.fukui.jp/seiki/fukui2030/index.htm>
